

教育文化連帯学会 (ISEC)

日本のブラジル人就労者子弟への
サンパウロ州州立学校編入援助プログラム

カエルプロジェクト



ブラジル三井物産ファウンデーション 支援

目的

日本より帰国子弟の健全な成長に向け、社会的・学級の編入を可能にさせるための対策に取り組むこと

デカセギ現象に巻き込まれた子供たち

法務省の在留外国人統計の2007年12月の報告書によると日本在住ブラジル人の総数は31万6967人、そのうち6万5000人以上が19歳未満の幼年、少年とされています。

日本よりブラジルへ初めて来る、もしくは帰国する子供たちはブラジル社会、生活、そしてブラジルの学級システムに馴染むまで様々な困難に遭い、教育的、社会的排除の的になりやすい状態にあります。最近ではブラジル国籍をもちながらも日本で生まれ、ブラジルを知らず、帰国ではなくブラジルへ新しく移住する子供たちもいます。

帰国子弟の（再）編入については様々な困難が指摘されますが、数々の要素が交じり合い、各子弟の個人的な問題となります。特に子弟のブラジルに着いたときの状態は日本在住期間をどう過ごしたかに左右されます。言葉、特に学校で使われるフォーマルな表現に対する問題はほぼ共通ですが、ほとんどの子供たちは日常生活に必要なポルトガル語の最低限のボキャブラリーさえも習得していないのが現状です。大きな文化の違いに対するストレスやその他の重要な社会的、家庭的な要点があります。いつ、何歳で日本へ渡ったか、日本在住期間、住んだ町の対応、どんな学校に通ったか、もしくは不就学だったのか、中断したのか、引っ越したのか、どんな対人関係を持ったのか、家庭的な事情など、多くの共通点が見られます。

その一方で日本で暮らすブラジル人の子供たち、特に低学年に通う子供たちは「ダブルリミテッド」と呼ばれるケースに当てはまることもあります。つまり日本語、ポルトガル語、両方ともできない状態、母国語を少しずつ失い、日本語も十分に習得することもできず、日本の学校でも授業を受けることが困難になっています。

そういった帰国、または移民してくる子供たちを受け入れる体制を整える必要性があることはもはや明らかです。補習、心理的カウンセリング、親や教育者の指導などを必要としています。すでに行われたプロジェクトの経験から、生徒、学校、家族の参加を要する三脚体制は子供の健全な成長の基礎といえます。日本語を始め、日本で習得した知識を失いたくないという子供もいます。（現に日本で習ったことは忘れられてしまう傾向にあります）そしてそれは成長のための支えにもなりえます。また、ほかの子供たちは父母との関係を深める必要があります。そういった状況にも目を向ける必要があります。刺激不足や差別、いじめにあった経験から 心的外傷後ストレス障害（PTSD）で苦しむ子供たちもいます。

ISEC（教育文化連帯学会）はデカセギ問題に巻き込まれた子供たちの帰国後の教育を支援するため、教育の権利を確保するため、サンパウロ州教育庁と共同でカエルプロジェクトを開発し、実施中です。現段階では帰国後、州立の小、中学校に通う子供たちを対象としております。この州内でのパイロットプロジェクト経験を元にサンパウロ州の他の市や州外でもプロジェクトを実施できるよう、マニュアルを作成することも考えております。

カエルプロジェクト

カエルプロジェクトとは（カエルとは、日本語で帰る、変わる、そして蛙といった意味をもちます。蛙はオタマジャクシが変態し、成長した姿ですが、我々は帰国子弟の成長を望んでいます。また、蛙は両生類であり、水陸両環境を生活に必要としますが、帰国子弟たちにも二つの違った文化環境での生活が求められています。）

カエルプロジェクトはサンパウロ州州立小学校に通う日本からの帰国子弟に向けた心理的、社会的、教育的支援、そして補習などを目的としています。彼らは学習の困難やポルトガル語が十分にできないこと、対人関係やブラジル社会編入に困難があり、結果として自分の成長、家族、学校、そして知人に対しても問題を起こしてしまいます。

このプロジェクトは州教育庁とのパートナーシップ、そしてブラジル三井物産ファウンデーションの支援により、各州立学校で無料で実施されます。

カエルプロジェクトの目的

カエルプロジェクトの主な目的として次の点があげられます。

- － 子供たちのグループに介入し、各人の困難や需要に応じて心理学、社会保護、基礎言語能力指導やその他の補習を含む教育的指導などのサポートを行うこと。
- － 家族の方々を指導し、また彼らの困難を理解した上で、子供たちの文化的、社会的、学級的編入を手伝い、家族の絆を固めること。
- － 学校の教師や教員と話し合い、生徒たちに対するその役目の重要性を認知してもらうこと
- － プロジェクトの現段階を元に、マニュアルを作成し、プロジェクト執行部から離れた場所でも実施できるように取り組むこと

教育文化連帯学会とは

2003年、12月、サンパウロ州で設立されたNPO（非営利団体）で、CNPJ 07.263.076/0001-59 の登録を持つ。様々な分野、特に文系、移民、教育の専門家たちが集い、帰国子弟を中心としたプロジェクトを作成、実行し、なおかつ、これらの分野の学生たちの能力向上を目的とした研修、学会、円卓会議、シンポジウムを行う団体である

ISECの目的

教育と文化を目的としたプロジェクトに触れることにより、子供たちの健全な成長を可能とするよう取り組むこと。

ISECとは、非営利、非政府、非宗教的組織であり、教育を中心とした次の分野で活動する。

- ー 子供たちのかけがえのない、教育を受ける権利を保護し、危険、または困難な状態にさらされ、差別行為などの的になりえる幼少年、特に、デカセギ現象に巻き込まれたブラジル国籍を持つ帰国子弟向けの活動をする事。
- ー 同種の他の団体や様々な分野の専門家たちの協力により、子供たちがブラジルと日本で満足な教育を受けることができるよう、企画を作成、またはすでに存在する企画を遂行すること
- ー 日本の同種の団体や日本、ブラジル政府機関とのパートナーシップを深め、共同で教育、文化面での問題を考える交流、協力をすること
- ー 「デカセギ問題」をテーマとした円卓会議、セミナー、シンポジウムを開き、常に情報更新を行い、行動に役立てること
- ー 保健、言語聴覚療法、心理学の分野を中心に各児童の特殊な問題に対応できるように、協力者を募ること
- ー 帰国子弟やその家族のみならず、ブラジル社会全体に向け、児童の教育問題を考える会を開催すること
- ー 保護者、および父兄を、日本へ向かう前に、そして帰国後も、指導すること
- ー 日本とブラジルの教育、文化面の交流を目的としたプログラムを作成すること

カエルプロジェクトの実施について

現段階で、ISECはサンパウロ州教育庁とともにサンパウロ市内や、その周辺地域の州立校に通う子弟向けにプロジェクトを実地しております。

- 1) サンパウロ州、そしてサンパウロ市内の小中学校のリサーチを行い、ISEC、教育庁が共に調べ上げたデータをもとに、カエルプロジェクトがいかに多くの児童、そしてその家族に対応できるか、検討する
- 2) 各学校を訪問し、校長、教頭陣にプロジェクトを紹介し、了解を得た場合、校内の対象生徒数やインフラストラクチャー、介入の可能性などを調べる
- 3) 様々な情報を集めた後、需要、教師陣が協力的かどうか、地域などを基に審査し、現段階の参加校を選出する
- 4) 選出された学校へ通知し技術者スタッフを通して、校内環境、組織など、さらに情報を集める
- 5) プロジェクトに参加する児童たちのデータ、学習の困難、成長過程、得意分野、家族や環境などの情報を得る
- 6) 学校の教師、教員陣と話し合い、帰国子弟たちの問題点をなるべく多く発見できるような情報を得る
- 7) 必要ならばプロジェクトに参加する児童のクラスで授業参観する
- 8) 保護者の方々を招聘し、児童の教育や成長、または家族状況などについての質問に答えていただき、プロジェクト参加希望者の場合、保護者の会に誘う
- 9) 帰国子弟を個人的面接する（心理テスト使用）
- 10) 児童たちと遊び診断法、または個人面接を行うこと

- 11) 全ての情報を得た上で技術者スタッフは参加児童を選考し、必要に応じてグループに分けて指導するために、児童グループを決め、学校との連携を決めるよう、教師陣やその他の専門化を招聘する
- 12) 技術者スタッフは学校で集中的に介入し、その他の専門家たち、教師陣と共に、個人的、またはグループ指導を行い、さらにオンライン対策を練るなど、可能な限り、多くの児童たち、または両親、家族を指導する
- 13) 技術者スタッフは六ヶ月ごとに全参加校の児童、保護者、教師、その他の協力者、参加者を招聘し、その半年間の終了パーティーを行い、その時点までの成果を発表する
- 14) 六ヶ月ごとに各期の終了時点でカエルプロジェクト介入班と教師たちで結果を検討し、成果を発表する
- 15) カエルプロジェクトは各校に十二ヶ月の間、実施される。ただし、必要に応じて延長の可能性もある。

成果発表

カエルプロジェクトの成果および資金の用途を明確にするために、目的に応じて、チェックリストが作成、発表されます。

このプロジェクトの評価はプロジェクトに参加する専門家たちによって行われ、結果をメディアに公表いたします。基金の用途を明確にするために知識やデータを評価するためのシステムを開発いたします。

子供のグループ — プロジェクトに参加した子供たち、回数、子供の参加率、子供たちの興味、グループ内の子供同士や教師との交流、先生たちやクラスの人たちとの交流、出席率、子供同士の評価など。

保護者や教師たちのグループ — 会合の回数、参加率、出席率などのチェックリストを作成して、参加者自身の評価をする

オンライン指導 — I S E Cのホームページにはカエルプロジェクト専用のページを作成する予定です。児童、保護者、教師陣の質問や需要、個人的指導などオンラインサービスを行います。尚、このサービスの情報はカエルプロジェクトに直接参加する介入班のみがアクセスでき、児童のプライバシーは守られます。